



長和町公共施設個別施設計画（改定版）の概要版

計画期間：令和8（2026）年度～令和27（2045）年度



I. 公共施設個別施設計画の背景・目的等

○計画の背景

本町では、平成29（2017）年3月に「長和町公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」という。）を策定（令和4（2022）年改定）し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理（公共施設マネジメント）を行っていくための基本的な方針を定めました。

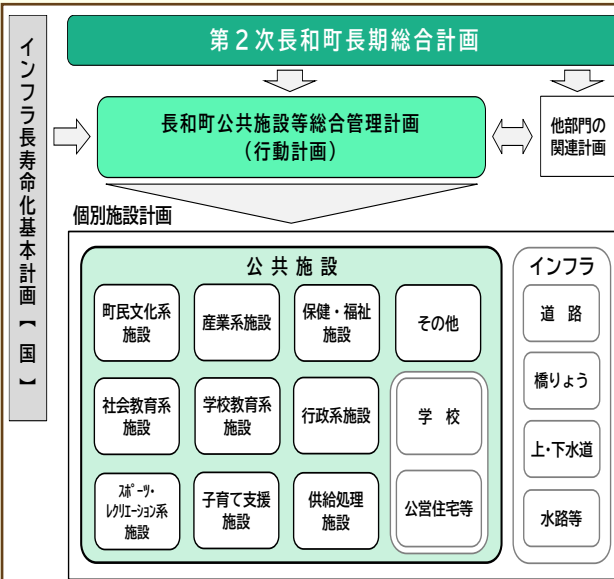
総合管理計画の基本方針を踏まえて、個別の施設ごとの公共施設の現状を把握し、長期的な視点をもって、更新・長寿命化等の整備を実行する計画を検討することが求められています。

○計画の目的

総合管理計画の目標や方針を実現するために、個別施設ごとに中・長期計画を定めることにより、ライフサイクルコストの縮減及び財政負担の平準化を図ることを目的とし、安全安心な公共施設サービスを提供するとともに、持続可能な財政運営を目指します。

○計画の位置づけ

本計画は、総合管理計画に基づき、個別施設ごとの具体的な対応方針を定める計画として位置付けるものです。



II. 対象施設

本計画では、公共施設等のうち公共施設（公共建築物）を対象とし、別途長寿命化計画を有する学校施設、公営住宅のほか、簡易建築物は対象外とします。

対象施設は、棟数270棟、延床面積75,115.69㎡となります。

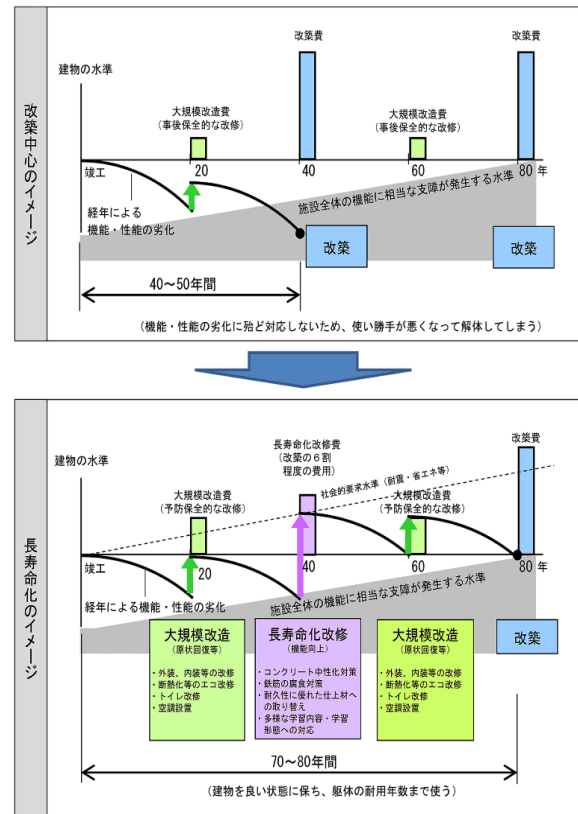
大分類	中分類	施設数	延床面積	構成比
町民文化系施設	集会所	50	12,422.01㎡	16.5%
社会教育系施設	博物館等	12	6,486.92㎡	8.6%
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	14	11,807.05㎡	15.7%
	レクリエーション施設・観光施設	12	3,694.95㎡	4.9%
	保養施設	2	725.41㎡	1.0%
産業系施設	産業系施設	16	11,204.72㎡	14.9%
学校教育系施設	その他教育施設	9	670.49㎡	0.9%
子育て支援施設	幼保・こども園	2	2,407.40㎡	3.2%
	幼児・児童施設	2	802.33㎡	1.1%
保健・福祉施設	高齢福祉施設	6	3,457.55㎡	4.6%
	障害福祉施設	1	510.70㎡	0.7%
	保健施設	1	852.00㎡	1.1%
	その他社会保険施設	1	178.17㎡	0.2%
行政系施設	庁舎等	4	6,329.99㎡	8.4%
	消防施設	32	1,362.60㎡	1.8%
	その他行政施設	3	703.50㎡	0.9%
供給処理施設	供給処理施設	8	1,619.67㎡	2.2%
その他	その他	95	9,890.23㎡	13.2%
合 計		270	75,115.69㎡	100%

III. 公共施設長寿命化計画の基本的な方針等

○公共施設長寿命化計画の基本的な方針

施設の定期的な点検の実施や老朽化等の機能の低下が生じる前に予防的な修繕を行うことで、施設を長く使用することができるため、公共施設の長寿命化を図る上で「計画保全」の考え方を基本方針とします。

鉄筋コンクリート造等の大規模な施設整備について、建替え年数40年から、築20年程度経過後に予防保全的な改修等、中間期（40年など）に長寿命化改修、その後も約20年スパンで予防保全的な改修を計画的に行うなど、計画保全による建物の長寿命化（建替え年数80年）に切り替え、部位改修を併用した整備を行います。

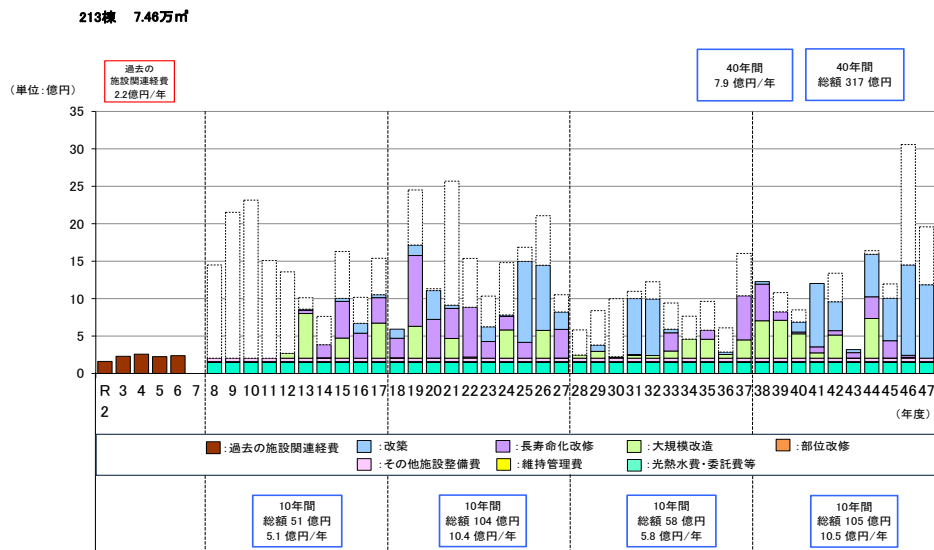


IV. 施設類型別の個別施設計画（中・長期計画）

○今後40年間の維持・更新コスト（中・長期計画の効果）

中・長期計画における維持・更新コストは総額317億円（7.9億円/年）（今後10年間の維持・更新コストは総額51億円（5.1億円/年））

- 従来型（40年で建替え）での試算総額との比較
約530億円（13.2億円/年）より総額213億円（5.3億円/年）、約40%の縮減
- 長寿命化型（80年使用）での試算総額との比較
約534億円（13.4億円/年）より総額217億円（5.4億円/年）、約40%の縮減



○中・長期計画の進め方

今後の方向性について施設ごとに検討を行いましたが、それぞれに異なる目的と役割を担っており、数量の削減は、関係者や地域の理解が必要なため容易ではありません。しかし、人口減少の影響は年々大きくなるものとみられます。このため、本計画の実施に当たっては、特に以下の3点に留意して検討していきます。

- 継続検討や利用・劣化状況により検討する施設については、早期に検討して地域等の意向を十分に踏まえながら方向性を決め、計画的に実行していきます。
- 少子高齢化や人口減少という社会構造変化のもと、公共施設の建替えや大規模改修、長寿命化改修などの際には、施設規模の最適化に留意して検討を進めていきます。
- 適切な時期に適切な維持管理、修繕を行うことにより、建物や設備の寿命を延ばし、ライフサイクルコストの低減に繋がっていきます。

○優先順位の考え方

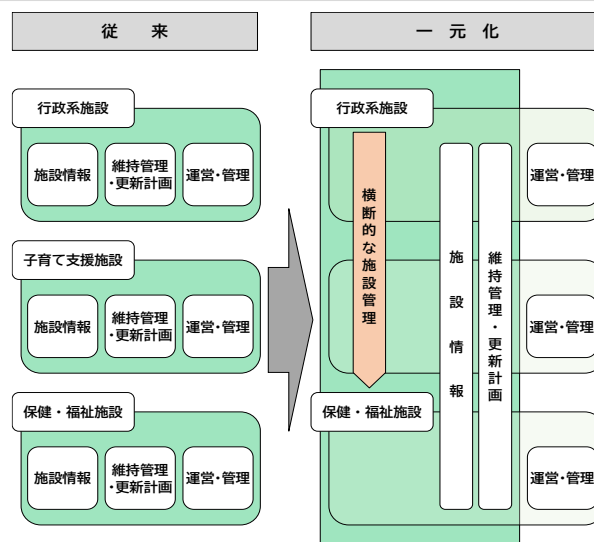
優先順位付けは、以下の点を考慮して決定します。

- 安全性……緊急性、耐震性、長寿命化、障害の排除
- 機能性……原状回復、防災・防犯、省エネ
- 経済性……ライフサイクルコストの低減
- 代替性……他に代替がないもの
- 社会性……社会的ニーズ（洋式トイレ、LED、ユニバーサルデザインなど）

V. 情報基盤の整備・計画のフォローアップ

○情報基盤の整備と活用

公共施設の点検・診断の結果は、今後の維持管理・更新の基礎資料となる重要な情報であるため、記録・保存する必要があります。また、点検・診断後に修繕等を行った場合の修繕履歴についても、同様に記録することで、効率的な維持管理を行うことが可能となります。このため、施設の基本情報、改修・補修等の工事履歴や劣化情報等の一元管理を行えるデータベースを構築していきます。



○フォローアップの実施方針

進捗状況等についてPDCA（計画・実行・評価・改善）サイクルを活用し、フォローアップを行います。なお、事業の進捗状況、劣化調査などの結果を反映しながら、国の制度変更や社会経済情勢など、条件が大きく変わった時点で、適宜必要な見直しを行うものとします。

